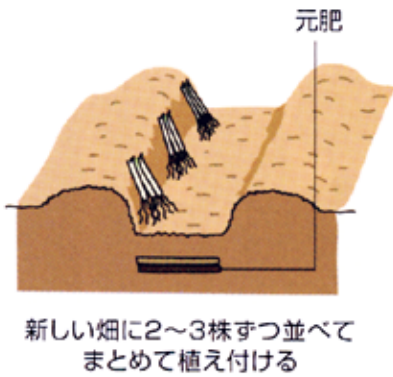




多年草のニラは春先に株分けして若返りさせる



ニラは中国西部の原産。北はモンゴル、南はマレーシア、ベトナムまで、アジアの地域で古くから栽培されてきました。強い香りのもと、硫化アリルはビタミンB1の吸収率を高め、糖の分解を促進、血行を良くし体を温め、胃腸の働きを助けるので、風邪予防や回復にも効果的、抗酸化作用によるがんの抑制効果も期待できます。

強健な野菜で、一度植えれば毎年、年に数回も刈り取りできるので、狭い家庭菜園にもうってつけです。しかし、いくら強いといっても2~3年取り続けると、株が密になり、幅広で厚みのある良質の葉が収穫できにくくなります。

株分け作業は、まず残っている枯れ葉を、地上5センチほどの高さできれいに刈り取ります。そして株の周りにくわかシャベルを大きく打ち込み、根株を掘り起こします。株元には強い細根が密に張っているので、全部を掘り取るわけにはいきませんが、中ほどで切断するようにしても一向に構いません。

株分けの適期は、越冬後です。ニラの育ちを観察すると、冬に入ると葉が次第に枯れ、休眠状態に入りますが、この休眠が覚め、新しい小さな芽が働き始めた頃を見計らって株分け作業をします。この頃は根株に栄養がたっぷり蓄えられていて、断根や分割という荒療治をしても傷みが少なく、作業もしやすいからです。

株分け作業は、まず残っている枯れ葉を、地上5センチほどの高さできれいに刈り取ります。そして株の周りにくわかシャベルを大きく打ち込み、根株を掘り起こします。株元には強い細根が密に張っているので、全部を掘り取るわけにはいきませんが、中ほどで切断するようにしても一向に構いません。

新しい畑への植え付けは、条間80センチ、深さ10センチほどの植え溝を掘り、元肥として堆肥、油かす、化成肥料を施し、5~6センチ土を戻してから図のように、2~3株まとめて、20センチ間隔に植え付けます。植えるときには根株を束状にまとめず平置きにするのが良いです。覆土は株の上部が少し出るくらいにとどめ、やがて新葉が伸びだしてきたら、葉先を埋めないよう注意して、2回ほど覆土し、溝が全部埋まるようにしてください。

こうすれば2~3カ月後には見違えるほど良質の葉が成長してきます。収穫は葉長20センチほどに伸びたときから繰り返しおこないます。

板木技術士事務所
●板木利隆

「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

*設置店舗：総合営農経済センター
片貝営農センター
千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!
探したい項目を指でタッチ!!